事業評価調書

◎基本情報

年度	令和5年度	会計コード	10	一般会計	事業コード	70073
事業名	さっぽろ医療DX推進費					
評価担当課	所属	保)ウェルネス 医療政策課			電話番号	011-211-3517
施策名	誰もが申請や相談等の手続きをオンラインで完結することができる					
アクションプラン	● 対象 ○ 対象外					
事業の性質	○ 経常経費 ● 臨時的経費			○ 内部管理 ○ 法定経費 ○ 指定管理費		
	○ 直営 ○ 一部委託 ● 全部委託			○ 補助・助成 ○ その他		

事業 内容	事業の背景(現在の状況、社会的課題)	①医療DX推進事業 高齢化の更なる進行が見込まれる本市において、在宅医療提供体制の整備は喫緊の課題である。その課題解決に向けた施策の1つとして、オンライン診療の活用は有効であるが、在宅医療を中心的に担う小規模クリニックでは機器等の導入費用やノウハウ不足が問題となり、オンライン診療の導入を見送る事例が多い。 ②③救急搬送支援・情報収集・統計分析システム及び転院調整支援システム 近年、搬送困難事例や、高齢化により急性期は脱したが療養が長期間になると見込まれる事例が増加傾向であったことから、課題解決の方法の一つとして、患者の受入体制を「見える化」することで、救急搬送や転院調整をスムーズに行う。
	事業内容(何を実施し)	①医療DX推進事業 市内医療機関(約1700施設)を対象に医療DX全般にかかるオンラインセミナーを開催(参加者数:31医療機関38名)。 ②救急搬送支援・情報収集・統計分析システムの運用開始 R5年度に構築し、R6年2月19日より運用開始(参画医療機関数 53施設) ③転院調整システムの運用開始 R5年度に構築し、R6年4月1日より運用開始(参画医療機関数 79施設)
	どのような状態にしたい(状態を維持したい)	DXに取り組む医療機関を拡充し、医療機関における情報共有及び診療等の効率化が図られ、患者が必要な医療にスムーズにつながる体制を確保する。
	他都市の状況	複数の自治体でオンライン診療に対して独自補助制度を整備するなど、全国的にDXを推進している。
	市民参加の実施	☐ 企画 ☐ 実施 ☐ 評価 ☒ 対象外

令和4年度決算額	0 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	0 人工
令和5年度予算額	30,000 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1.2 人工
令和5年度決算額	12,231 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1.2 人工
令和6年度予算額	7,300 千円	うち特定財源	0 千円	正規職員業務量	1.1 人工

指標	アウトプット活動指標1	医療DXセミナーの受講者数				という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
			-	38	100	150	200
			↓				
	アウトカム成果指標1	DX(電子カルテ導入等)に取り組む医療機関が増える(割合)				という状態にしたい、成果を挙げたい	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
			60	不明	70	75	80
	指標1の評価、未達理由、今後の考え方	引き続き、ICTの導入支援やセミナーの開催を通して、割合の向上を図っていく。なお、成果指標の把握にむけて今年度に医療機関を対象とした実態調査する予定。					
	アウトプット活動指標2					という活動、業務を行うことで	
		令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定
		↓					
アウトカム成果指標2					という状態にしたい、成果を挙げたい		
	令和4年度実績	令和5年度予定	令和5年度実績	令和6年度予定	令和7年度予定	令和8年度予定	
指標2の評価、未達理由、今後の考え方							

今年度の見直し内容 ①オンライン診療の普及促進にむけて、セミナーの内容充実を図る。②③医療体制審議会の部会において、各システムで収集した統計データ等を基に、検証を進めていく。

来年度以降の方向性 ①在宅医療提供施設へのオンライン診療の導入支援等を通して、今後、更に医療DXを推進していく。②③参画医療機関を増やすため、既導入医療機関へのヒアリングを行ったうえで、未導入医療機関への働きかけを行っていく。また、転院先の受け皿として在宅医療機関への拡大を検討する。